

厚生労働大臣メッセージ

赤い羽根共同募金運動は、戦後間もなく開始されて以来、今年で78回目を迎えます。国民の皆様の温かい助け合いの思いによって支えられ、我が国の地域福祉の発展に大きな役割を果たすとともに、本年1月の能登半島地震を始め災害時のボランティア活動の支援にも役立てられています。

現在、我が国では、単身世帯の増加といった社会構造の変化や、孤独・孤立など、福祉ニーズの複雑化・多様化に直面しています。

このため、地域住民や多様な主体が互いに支え合い、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現がより一層求められています。

日本の募金運動の草分けとして、寄附文化を育み、住民が相互に支え合う地域づくりの原動力となってきた赤い羽根共同募金運動が、今後も力強く展開され、支援を待つ多くの方々の支えとなることを心から願っています。

本年も、多くの皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

令和6年10月1日

厚生労働大臣

武見敬三